

6/19

(追加資料 24.6.19)「教皇フランシスコの核兵器廃絶メッセージ」

核兵器についてのメッセージ 長崎・爆心地公園 19.11.24

「国際的な平和と安定は、相互破壊への不安や壊滅^{かいめつ}の脅威を土台とした、どんな企てとも相いれないものです。むしろ、現在と未来の人類家族全体が、相互依存と共同責任によって築く未来に奉仕する、連帯と協働の世界的な倫理によってのみ実現可能となります。

この地、核兵器が人道的にも環境にも悲劇的な結果をもたらすことの証人であるこの町では、軍備拡張競争に反対する声を上げる努力がつねに必要です。軍備拡張競争は、貴重な資源の無駄遣いです。本来それは、人々の全人的発展と自然環境の保全に使われるべきものです。今日の世界では、何百万という子どもや家族が、人間以下の生活を強いられているにもかかわらず、武器の製造、改良、維持、商いに財が費やされ、築かれ、日ごと武器は、いっそう破壊的になっています。これらは天にたいする絶え間ないテロ行為です。

核兵器から解放された平和の世界。それは、あらゆる場所で、数え切れないほどの人が熱望していることです。この理想を実現するには、すべての人の参加が必要です。個々人、宗教団体、市民社会、核兵器保有国も非保有国も、軍隊も、国際機関もそうです。核兵器の脅威に対しては、一致団結して応じなくてはなりません。それは、現今の世界を覆う不信の風潮を打ち破る相互の信頼によって築く、困難ながら堅固^{けんこ}な構造に支えられるものです。1963年に聖ヨハネ二十三世教皇は、回勅『パーチェム・イン・テリスー地上の平和』で核兵器の禁止を世界に訴えています。加えてこう断言しています。「軍備の均衡が平和の条件であるという理解を、真の平和は相互の信頼の上にならしか構築できないという原則に置き換える必要があります」。・・・

昨年七月、日本の司教団は、核兵器廃絶の呼びかけを行いました。日本の教会では毎年八月に、平和に向けた十日間の平和旬間を行っています。どうか、祈り、合意拡大のたゆまぬ追求、対話への粘り強い招きが、わたしたちが信を置く「武器」でありますように。また、平和を真に保証する、正義と連帯のある世界を築く取り組みを鼓舞するものとなりますように。

核兵器のない世界が可能であり必要であるという確信をもって、政治をつかさどる指導者の皆さんにお願いします。核兵器は、今日の国祭的また国家の安全保障に対する脅威からわたしたちを守ってくれるものではない、それを

忘れないでください。人道的および環境の観点から、核兵器の使用がもたらす壊滅的な影響を考えなくてはなりません。・・・

平和のための集い 広島平和記念公園 19.11.24

「わたしは平和の巡礼者として、この場所を訪れなければならないと感じていました。・・・

わたしは謹んで、声を発しても耳を貸してもらえない人たちの声になりたいです。・・・

確信をもって、あらためて申し上げます。戦争のために原子力を使用することは、現代においては、これまで以上に犯罪とされます。人類とその尊厳に反するだけでなく、わたしたちの共通の家（地球）の未来におけるあらゆる可能性に反する犯罪です。原子力の戦争目的の使用は、倫理に反します。核兵器の保有は、それ自体が倫理に反しています。・・・

真理と正義をもって平和を築くとは、『人間の間には、知識、徳、才能、物質的資力などの差が著しく存在する』のを認めることです。ですから、自分だけの利益を求め、他者に何かを強いることが正当化されてよいはずはありません。・・・

実祭、より正義にかなう安全な社会を築きたいと真にのぞむならば、武器を手放さなければなりません。・・・

思い出し、ともに歩み、守る。この三つは倫理的命令です。これらは、まさにここ広島において、よりいっそう強く、より普遍的な意味をもちます。・・・

だからこそわたしたちは、ともに歩むよう求められているのです。・・・希望に心を開きましょう。和解と平和の道具となりましょう。」

一般謁見講和 タイと日本への司牧訪問を振り返って

バチカン・サン、ピエトロ広場 19.11.27

「わたしは、出会いと対話の文化を期待しています。それは、知恵と広い視野を特徴としています。その宗教的・倫理的価値観に忠実でありながら福音のメッセージに開かれている日本は、より正義と平和のある世界のため、また人間と自然環境との調和のため、主導的な国となれるでしょう。・・・」